

# いわて復興だより

がんばろう！岩手 つなごろう！岩手

## 三陸復興

第 94 号

平成 27 年 10 月 15 日号

### 復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

紅葉が進み、旬な食べものや色付いた景色に岩手県の四季の魅力を感じる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

## 若者・女性の意見を！「若者との意見交換会」が開催されました

盛岡市

平成 27 年 9 月 30 日（水）、エスポワールいわて（盛岡市）において「東日本大震災津波からの復興に係る意見交換会（若者との意見交換会）」が開催されました。

これは第 2 期復興実施計画を進めるに当たり、若者や女性の幅広い意見を取り入れ、復興の取組を促進し、今後の施策に活かしていく目的で行われたものです。

当日は、沿岸地域で活躍している

県内出身者や三陸の復興と地域の活性化に力を注いでいる「いわて復興応援隊」など県外出身者の男女 7 名が集まり、「復興を進める上で、若者の力で解決できる課題」、「復興に取り組む様々な主体が連携し解決できる課題」をテーマに岩手大学農学部 広田純一教授の司会の下、意見交換を行いました。

参加者からは、「学校や家の他に地元で交流できる場所（サードプレイ

ス）が必要」、「フェイスブックやツイッターを利用した地域間のネットワーク作り」、「仕事以外のやりがい、生きがいを持てる地域作り」、「首都圏からの Uターン、Iターンの取組が必要」等の意見が出されました。

意見交換会に出席した大船渡市の NPO 法人防災・市民メディア推進協議会・田村華恵（はなえ）さんは、「同年代の人と意見を交わすことが少ないので、刺激的で自分も頑張ろうと思いました。」と話し、山田町のシーカヤック運営 GEOTRAIL 代表・川村将崇（まさたか）さんは、「今日の意見交換で問題点は分かったが、どのように問題を解決していくかを考えなければならない。これからも今日会ったメンバーとつながりをもって接し、課題の答えが見つけれれば。」と話していました。



意見を交換する若者



当日の参加者

## 平成 27 年【第 2 回】「いわて復興ウォッチャー調査」の結果を公表しました

岩手県では、東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、「いわて復興ウォッチャー調査」を実施しています。

これは、被災地域に居住又は就労している方々を対象に、半年に 1 回実施するものです。

今回は、平成 27 年第 2 回目（平成 27 年 8 月実施）の調査結果から、主なデータを紹介します。

### 被災者の生活の回復に対する実感

「回復」又は「やや回復」：66.4%（前回調査：65.9%）

- ・前回調査と比べ 0.5 ポイント上回った。
- ・新しい町並みが整備されたという声がある一方で、若者の地元離れを懸念する声や取り残されている被災者の心のケアを訴える声も見られた。

詳しくは [平成 27 年【第 2 回】「いわて復興ウォッチャー調査」](#) [検索](#)

### 地域経済の回復に対する実感

「回復」又は「やや回復」：54.2%（前回調査：53.6%）

- ・前回調査と比べ 0.6 ポイント上回った。
- ・水産業の好調や従来からのビジネスモデルからの転換に成功といった声がある一方、商業の不振や人手不足を訴える声も見られた。

### 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

「達成」又は「やや達成」：33.3%（前回調査：30.5%）

- ・前回調査と比べ 2.8 ポイント上回った。
- ・防潮堤等工事の進捗を評価する声がある一方、防潮堤で海が見えなくなるとの声や避難誘導看板等の不足、住民の不安解消がなされていないといった声も見られた。

三陸だより

### 宮古 - 釜石 直行便バス 運行中!!

東日本大震災津波で不通になっている JR 山田線 宮古 - 釜石間を直結！観光・ビジネス、岩手県北三陸と南三陸の移動に是非ご利用ください。

- 平成 27 年 11 月 29 日までの土・日・祝 および 11 月 2 日（月）運行
- 片道 1,500 円（宮古～釜石間）※小学生以下は半額 ■予約不要

【お問い合わせ】岩手県北バス 宮古駅前案内所 ☎ 0193-62-3620  
宮古営業所 ☎ 0193-64-6060

宮古 釜石 直行便バス

宮古～釜石片道 1,500円 予約不要

11月29日まで

## 女子高校生が企画 応急仮設住宅の外壁が ハートマークで飾られる

釜石市

平成 27 年 9 月 20 日（日）、釜石市中妻町の応急仮設住宅の外壁が、色とりどりのハートマークにあしらわれたマグネットシートで彩られました。

これは、同応急仮設住宅に住む寺崎幸季（ゆき）さん（釜石高校 2 年）が、「無機質な応急仮設住宅ではなく、愛着を持って“家”と呼んで暮らしたい。」という想いから企画。アーティストで東京藝術大学教授の日比野克彦さんへ協力を求め実現したものです。

日比野さんは、「想いを形にして、人と人を繋いでいきたい。」と、東日本大震災津波直後から、被害を受けた場所をハートマークで飾る「ハートマーク♥ビューイング」の活動を行っており、当日は、住民やボランティアなど約 100 人が参加。この企画に賛同した全国の有志や地元の幼稚園、小学生、釜石高校の生徒から寄せられた約 6 千枚のシートで応急仮設住宅の外壁を色鮮やかに装飾しました。



装飾された仮設住宅の外壁  
写真提供：復興釜石新聞

## 東日本大震災津波後初の「カキ出荷式」

大船渡市

平成 27 年 9 月 30 日（水）、大船渡市漁協の製氷工場で、カキの出荷式が行われました。

東日本大震災津波で同市のカキ養殖は、養殖イカダや加工施設が大きな被害を受け、震災前に約 130 人いた養殖業者は 81 人に減少しました。震災の翌年には出荷を再開しましたが、年々カキ養殖関連施設の復旧が進み、今般本格的に出荷体制が整ったことから、震災後初めて出荷式が実施されました。

式には、同市漁協のカキ養殖漁業者や関係者などおよそ 40 人が出席。テープカットで今季初の出荷を祝った後、むき身カキ約 1.9 トン、殻付きカキ 32,490 個が築地市場（東京都）に出荷されました。

同市漁協によると、今年度は、むき身カキ 144 トン、殻付きカキ 274 万個の出荷を見込んでおり、カキの出荷量は震災前の 8 割まで回復する見通し。来年 3 月まで出荷が行われる予定です。



築地市場に出荷される養殖カキ

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第 46 回目は、下向 理奈さんを紹介します。

### PROFILE

野田村出身。群馬の大学を卒業した後、東京で就職。東日本大震災津波で実家が被災したことを機に、平成 23 年 8 月に野田村へ U ターン。平成 24 年 8 月から野田村で定住交流促進事業・体験教育旅行コーディネーターとして勤務。平成 27 年 4 月、NPO 法人ののりのだ物語を設立し、野田村の魅力を全国に発信している。

### 「民泊」を通して地域の魅力を発信

地域の人たちと一緒に何かをしたいという想いを持つ下向さんは、地域の人と外部の人との交流事業の企画や、野田村へのツアー企画などに応えるコーディネートをメインに活動する中、地元の人たちと深く関わってもらいたいと、農家や漁師の民家に泊まる「民泊」を通じた地域の魅力発信に力を注いでいます。

## 未来の さんりく びと

NPO 法人ののりのだ物語

代表理事

下向 理奈

（しもむかいりな）さん



下向さんからのひと言：  
1 番の財産は『人』

下向さんは、「企画調整の時は大変なこともありますが、来てくれた人が帰る瞬間に村民の人が涙ぐんだり、また来てねと言って手を離さず握手するシーンを見ると、この仕事をやっていて良かったと感じます。」と、活動の手応えを感じています。

### 人と人の交流を大切に

「道路やかさ上げ工事など、目に見える復興が進むと同時に、仮設に住んでいる人たちも少しずつですが声色が明るくなってきているなど心情の変化を感じています。」と、復興への印象を話す下向さん。

野田村のこれからについて、「野田村でも人と人との関係が薄れてきていたり、野田村らしさが薄くなってきていると感じることがあります。世代間交流が自然にたくさん生まれる村になってほしいと思います。」と、話しました。

野田村の情報を発信すると同時に、人と人との交流を大切にする活動に期待が寄せられます。

### 岩手県の被害状況

平成 27 年 9 月 30 日現在

- ▶ 人的被害 死者（直接死）：4,672 人 行方不明者：1,126 人
- ▶ 建物被害（住家のみ、全半壊） 26,165 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

### 皆様のご支援、ありがとうございます

平成 27 年 9 月 30 日現在

- ▶ 義援金受付状況 約 184 億 415 万円（92,059 件）
- ▶ 寄付金受付状況 約 197 億 879 万円（7,466 件）
- ▶ いわての学び希望基金（※）受付状況 約 77 億 3,874 万円（16,273 件）

※ 被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第 94 号 平成 27 年 10 月 15 日号 企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス

【次回のいわて復興だよりについて】次回は 11 月 1 日号の発行を予定しています。